

「暮らしやすさ」のある町とはどんな状態の町ですか？

資料 6 - 1

・コミュニケーションがとりやすい

- ・子どもの遊べる場所がある
- ・通勤に時間がかからない
- ・移動のしやすさ
- ・犯罪が少なく安全である
- ・物が安い
- ・夜が静か

・誰もが利用しやすい場所にバス停を設置

- ・自然を大切に（東員町で作ったものを取り入れる）
- ・子育て支援制度の充実化を目指す
- ・徒歩で行ける範囲にスーパーやコンビニがある
- ・徒歩圏内に飲食店もスーパーもある
- ・必要なものがそろえやすい
- ・生活に必要なものがそろう

・働き口がある

- ・公共料金が安い
- ・素敵な政策できごとがある
- ・病院や学校などがある
- ・病院に困らない
- ・不満がない
- ・地域に関する問題を相談しやすい

あいさつやコミュニケーションを心掛ける （住民）		地域の人々との関わりが必要
チャットボットを導入する （東員町）	コミュニケーションが とりやすい	
	散歩などで自分から 積極的にあいさつを する	小中学校のあいさつ 運動の継続

	企業を呼びやすい 環境	職業を増やすことが 必要
起業に対し援助、相談の体制を作る （商工会）	働き口がある	
企業が少ない		新規事業を始める人 への支援をする

人が多く集まる場所 を調べる （町）		バス停を作るための お金を集める取り組みを やってみる （私たち）
住民にアンケートを行う （町）	誰もが利用しやすい 場所にバス停を設置	ニーズを調査する （自治体）
	利用するように心が ける （多くの人）	

「働く」ことができる町とはどんな状態の町ですか？

資料 6 - 2

・生活ができる

- ・近くに職場がある
- ・子どもを預けられる
- ・治安が良い
- ・リフレッシュできる場所がある

・医療機関が充実している

- ・働ける場所、仕事がある
- ・周りの環境が良い
- ・町民にとって需要のある店が多い
- ・職場の人との憩いの場

・知識を学べる場所がある

- ・通勤しやすい
- ・食べ物を自給できる
- ・店が多い
- ・家族と暮らせる

子どもを預けられる場所をつくる (自治体)	健康に良い食事の発信	近所で助け合い
職場の近くにスーパーや遊べる場所 (企業)	生活ができる	衣食住が充実 (全員)
	生活力がある (自分)	地域内で情報シェア (自治体)

自分の意識を変える	セミナーを開く (市民活動団体)	図書館の本を充実させる (町)
専門の講師の話を聞く会 (町or企業)	知識を学べる場所がある	話を聞く場所を設ける (企業や町)
労働者をサポートする場 (行政)	同業者同士が集まって勉強会	専門の書籍の充実

	オンラインで相談できるシステム (病院)	地元出身の医療従事者が増える
	医療機関が充実している	健康への意識を高める (個人)
医療従事者と町が情報交換	相談しやすい場所、システム	各企業への医療機関の斡旋 (行政)

「家族」が元気な町とはどんな状態の町ですか？

資料 6－3

- ・高齢者や体が不自由な人もつながりが持てる
- ・遠くにいる家族にも連絡や、会いに行くことができる

- ・いくつになっても自然と触れ合え、元気に過ごすことができる町
- ・若い子どもがいても働くことができる
- ・家族のみんなが健康で長生きできる町
- ・いくつになっても文化に触れあい生き甲斐が見いだせる町

- ・声が聞こえる

- ・衣食住が安心して確保できる
- ・お互いのあり方を尊重できる町
- ・家族で楽しめる場所がある町
- ・積極的に健康診断の受診を勧める
- ・病衣機や感染症に対しての処置が良い

- ・他の世帯が見える

- ・生きがいを感じて毎日過ごす
- ・子どもが楽しく遊べる場所
- ・運動できる施設が充実している
- ・一人一人が目的を持って動ける町

	AIの発達で遠くにいる家族の状況が分かる。お年寄りでも使える (企業)	近くに誰でも集まれる場所がある (町民)	
自治会が各家庭を訪問する (町民)	高齢者や体が不自由な人もつながりが持てる	声が聞こえる	高齢者や体が湯自由な方が遊んだり、話したりする場所がある (行政、町民)
近所、知り合いの人が声をかけコミュニティを作る。それに関する相談を自治体が受けサポート (町民、行政)	遠くにいる家族にも連絡や、会いに行くことができる	他の世帯が見える	意見箱のようなものを作り、自治会などで声が聞こえる
	高齢者や体が湯自由な方同士が交流するスペースがある (町民、行政)	遠くにいる人にも連絡を取れる手段(テレビ電話など)の講演会 (行政、高齢者)	